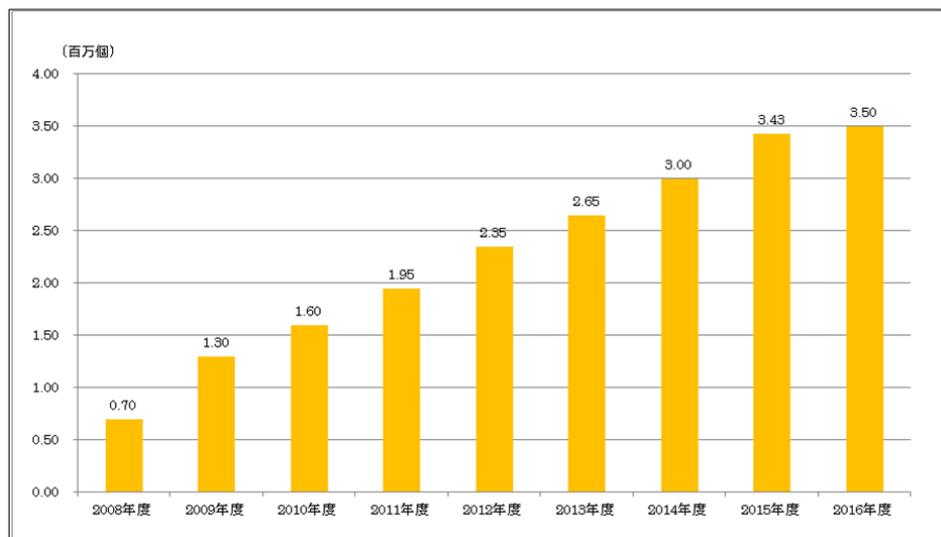


# 受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

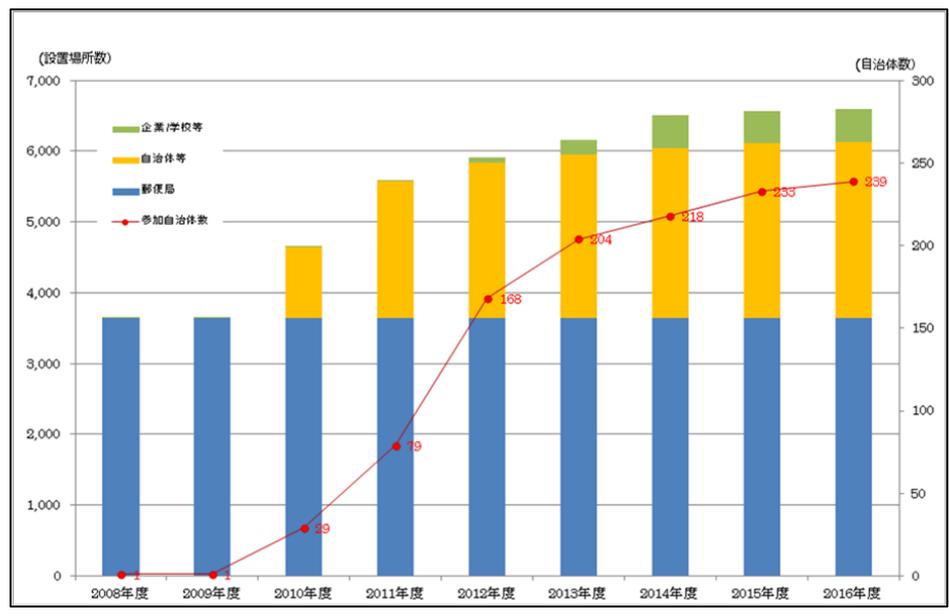
<b>平成24年度 環境大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small> <b>受賞</b>	受賞者名
	インクカートリッジ里帰りプロジェクト
	所在地
	東京都大田区
受賞テーマ	
	業界横断で取り組む使用済みインクカートリッジの資源回収（大阪市との協力事例）

1. 活動継続 あり  
 使用済みインクカートリッジの回収は今後も継続予定。



回収数量の推移

2. 活動の広がり あり  
 大阪市内スーパーへの新たな設置、関東地域で展開しているスーパーへの展開等、生活動線上の回収場所を増加させている。  
<http://www.inksatogaeri.jp/~map/contents/?p=44>  
 自治体等の参加もあり、回収箱設置場所も増加傾向にある。



設置場所数の推移

3. 活動の進化 あり  
更なる回収数量アップを目指し自治体等への勧誘、また消費者への告知活動を積極的に行っている。
4. 今後の計画  
プリンターメーカー5社による使用済みインクカートリッジの回収活動を今後末永く継続することで環境及び社会貢献に繋げていけるよう、改めて維持管理体制を整えていく。
5. その他  
寄付活動について：  
これまで寄付をおこなってきた国連環境計画(UNEP)、里山イニシアティブへの寄付を終了し、2017年度より新たに公益財団法人日本野鳥の会への寄付を開始。
- 累計寄付金額  
UNEP：約4300万円（2016年3月で寄付終了）  
里山イニシアティブ：約1140万円（2016年9月で寄付終了）  
公益財団法人日本野鳥の会：50万円（2017年4月より）

(次頁に表彰概要掲載)

## 【表彰概要】

同プロジェクトは、プリンターメーカー6社（ブラザー、キヤノン、デル、エプソン、日本 HP、レックスマーク）と日本郵政グループが連携し、家庭での使用済みインクカートリッジの効率的な回収と再資源化を促進するための活動である。2008年4月より、約3,600箇所の郵便局に回収箱を設置し活動を開始した。

また、2009年7月より自治体（役所庁舎・公共施設等）での回収も開始し、2012年3月末時点で全国約150自治体・約1,900箇所に回収箱を設置している。これらによって、家庭から排出される使用済みインクカートリッジの共同回収を実現し、物流効率化を含め環境負荷低減に向けて積極的に取り組んでいる。

### インクカートリッジ里帰りプロジェクト概略図



#### 【大阪市の実施事例・ポイント】

- ・当プロジェクトの使用済みインクカートリッジ回収は、乾電池・蛍光灯管等の回収を実施しているスーパーマーケット等のルートに加えてもらい、2010年11月に回収が開始した（拠点数：約170ヶ所）。この既存の回収ルートを利用するため、新たに同市の負荷を掛けず、スーパーという「生活動線上」において回収が実現した。
- ・自治体の協力の下、スーパーマーケットでの回収実施は当プロジェクトで初めての事例となった。
- ・2011年の回収実績は自治体の中でも群を抜いており、スーパーマーケット並びに同市の環境事業センター等の協力体制がその実績に結実している。